

■演題 13 十二指腸腫瘍に対する LECS の経験

代表演者：田中亮 先生（大阪医科大学 一般・消化器外科）

共同演者：（大阪医科大学 一般・消化器外科）河合英 李相雄 田代圭太郎 革島悟史 水野裕太
富岡淳 内山和久

【背景】十二指腸腫瘍に対する ESD は穿孔率が高く、重篤な穿孔性腹膜炎をきたすことが問題点の一つである。十二指腸腫瘍に対する安全な手技として LECS（Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery）の有用性が報告されている。当院でもこれまでに十二指腸腫瘍 3 症例に対して LECS を施行した。切除方法として腹腔鏡下に病変の局在を観察し、十二指腸の受動を行った後、ESD にて病変を切除し、標本を回収した後に腹腔鏡下に漿膜の縫縮もしくは全層縫合を行っている。

【目的】十二指腸腫瘍に対する LECS の有用性および安全性を検討する。

【対象と方法】当院にて十二指腸腫瘍に対して上記方法による LECS が施行された 3 症例 3 病変を対象とした。肉眼型、腫瘍径、手術時間、合併症等につき後ろ向きに検討した。

【結果】平均年齢は 62.7 歳、2 例が男性、1 例が女性であった。全例下行脚の病変であった。平均腫瘍径は 17.8mm、肉眼型は全例 O- II a + II c 型であった。病理組織は 1 例が粘膜内癌、1 例が腺腫、1 例が転移性十二指腸腫瘍であった。全例、ESD 途中で全層切開となり、腹腔鏡下に切除を完了させ回収した。十二指腸の縫合には V-loc を用いた。平均手術時間は 226.3 分、平均出血量は 10ml であった。術後合併症はいずれも認めず、平均術後在院日数は 11.7 日であった。

【考察】十二指腸腫瘍に対する LECS は穿孔のリスクを軽減でき、安全な術式であると思われた。